


洗足学園音楽大学

専攻科修了演奏会

2021年1月25日[月]
13:30開演 | 13:15開場
洗足学園 前田ホール

 洗足学園音楽大学



飯村 紗雪(ピアノ)

Profile

1998年東京都出身。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。10歳で姉の影響でピアノを始める。中学、高校と吹奏楽部に所属しトロンボーンを担当。第55回、第56回東京都高等学校吹奏楽コンクールでは金賞受賞。大学在学中3年次に井上道義の《メモリー・コンクリート》、4年次にはラヴェル作曲の《マ・メール・ロワ》でシルヴァン・カンブルランと共演。現在、洗足学園音楽大学専攻科ピアノコース在学中。ピアノを谷川明氏に師事。

Program

R.シューマン/ウィーンの謝肉祭の騒ぎ(幻想的絵画) 作品26より
Robert Schumann(1810-56) // *Faschingschwank aus Wien(Fantasiebilder)op.26*
第1曲 *Allegro*
第4曲 *Intermezzo*
第5曲 *Finale*

Program Note

この曲はドイツ・ロマン派を代表する作曲家であるロベルト・シューマンによって書かれた作品である。ロベルトは5人兄弟の末っ子で、出版業界で文学者でもあった父親のもとで早くから音楽や文学に親しみ、作曲や詩作に豊かな才能を示した。

《ウィーンの謝肉祭の騒ぎ》はそんなシューマンが1833年の秋から翌39年にかけて滞在したウィーンでの作品で、彼が体験した謝肉祭の騒がしさや賑やかさを幻想的に描いたものである。全5曲からなるが、第4曲までは1839年の3月以前のウィーン滞在中に、最後の第5曲はライプツィヒに戻った同年の3月以降に書かれた。今回演奏するのはその中の第1曲、第4曲、第5曲である。

第1曲アレグロ、変ロ長調、4分の3拍子、ロンド形式。舞曲風のロンド主題に5つのエピソードが挿入されている。この中で第4のエピソードが力強く現れ、フランス国家《ラ・マルセイーズ》が聞こえてくる。これは当時のウィーンでは公に歌うことを禁じられていたが、シューマンはこの歌を好んでいたようで敢えて用いている。曲はその後第5のエピソードのあとロンド主題を出し、第2のエピソードによるコーダで締めくくられる。

第4曲インテルメッツ、変ホ短調、4分の4拍子。感情表出の大きな作品で、表現の面でこの曲集の他の作品と比較して独立性が強い。終始一貫して現れる3連符の伴奏上に、暗く美しい叙情的な旋律が、変ホ短調から変ロ短調、変イ短調へと色彩を変えて歌われていく。

第5曲フィナーレ、変ロ長調、4分の2拍子、ソナタ形式。作品全体を締めくくるのに相応しい曲である。全体的に細かい音型が現れて興奮が覚めぬ様子が描かれている。



佐久間 由希乃(ピアノ)

Profile

東京都出身。洗足学園音楽大学音楽学部ピアノコース卒業。5歳からピアノを始める。これまでピアノを末木裕美氏に師事。大学在学中は歌曲・オペラ伴奏の研究、器楽伴奏に積極的に取り組む。学外では、部活動の指導やボランティアなど、教育現場でも活動を広げ、音楽を通じた社会貢献の可能性を模索している。現在、洗足学園音楽大学専攻科在籍中。

Program

F.シューベルト/《即興曲集》より 第3曲 変ト長調 D.899 作品90-3
Franz Schubert(1797-1828) // *Impromptus Ges-dur D.899 op.90-3*

F.シューベルト/《即興曲集》より 第4曲 変イ長調 D.899 作品90-4
Franz Schubert(1797-1828) // *Impromptus As-dur D.899 op.90-4*

F.リスト/ 献呈 (R.シューマン) S.566 R.253
Franz Liszt(1811-86) // *Lieder von Robert Schumann Liebeslied "Widmung" S.566 R.253*

Program Note

《即興曲》D.899作品90はロマン派を代表する作曲家の一人、F.シューベルトが、亡くなる1年前に作曲した晩年の作品である。31歳という若さでこの世を去ったシューベルトは、ピアノ曲や歌曲など1000曲以上の作品を残している。即興曲とはいうものの即興演奏によって作られたものではなく、4つの小品をまとめたものであり、タイトルも出版社によって名付けられた。本日はそこから第3番と第4番を演奏する。

第3番変ト長調は三部形式。終始6連符で紡ぎ出される伴奏パートによって、息の長い美しい旋律が歌曲のように歌われる。中間部は低音のトリルや深い響きが特徴的である。

第4番変イ長調は複合三部形式。右手の分散和音と左手の和音による動きのあるリズムから始まる。中間部(トリオ)に表れる印象的な長短調の変換はシューベルトがよく取り入れている手法である。最後はコーダをつけず、変イ長調のままカデンツで締めくくられる。

《F.リスト「献呈」(シューマン)》S.566 R.253は、R.シューマン(1810-56)の歌曲《献呈》をリストがピアノ独奏曲に編曲した作品。原曲の歌曲は、1840年にシューマンが妻となるクララに贈った歌曲集《ミルテの花》に収められている。リストによる編曲は1848年。当時リストはドイツ文化の中心だったヴァイマルの宮廷に仕えており、指揮、教育、批評など様々な分野で活躍し、作曲のみならず編曲活動にも励んでいた。

リストが編曲した《献呈》は三部形式で作られており、原曲に忠実ながらも自身が得意とする超絶技巧を取り入れ、華麗なアルペジオや和音を用いて曲を情熱的に盛り上げ、最後はシューマンのクララへの想いに寄り添うように、印象深いコーダで終わっている。



荒又 恭子(声楽)

共演者:片倉 みな美(ピアノ)

Profile

東京都出身。洗足学園音楽大学音楽学部声楽コース卒業。16歳より声楽を始める。これまでに声楽を前原鮎子、吉田伸昭、沢崎恵美の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽専攻科声楽コースに在学中。

Program

團 伊玖磨（1924-2001）／歌曲集《五つの断章》より

- 第一曲 野辺
- 第二曲 舟唄―片戀―
- 第四曲 朝明

G.ドニゼッティ／喜歌劇《リタ》より

Gaetano Donizetti(1797-1848) // Rita ou Le mari battu

家も旅籠もうまくいく *Van la casa e l'albergo a gonfie vele*

Program Note

北原白秋の詩による《五つの断章》は、1946年（昭和21年）に作曲された。

《野辺》は、詩集『思ひ出』の一篇。麗かな春の夕暮れ、たんぽぽの香りと淡く白い綿毛が甘く散乱している野に、一人の女が泣き出した。涙に込められた切なさ、悲しみが溢れ出る瞬間を見た時、切ない感情が少年の胸に染み込み、「なぜおまえは泣くのか」と憐れみと切なさ、少しのときめきをもって心の中で問いかけた。

《舟唄―片戀―》は、詩集『東京景物詩』の一篇。"あかしやの金と赤とがちる"とは初秋の日暮れ頃、鮮烈な夕日が白い花を華麗に染めているようす。片想いの憂いはフランネルのような繊細で甘美な悲しみと表現される。東京都墨田区曳舟のほとりを歩き、柔らかく頬を撫でる風に、はらはらとあかしやは散る。片想いの相手の柔らかな吐息を空想させる。

《朝明》は、詩集『思ひ出』の一篇。朱いレンガ造りの竈の影にひっそりと咲くすみれの花に、今、竈で焼かれた若くして世を去った妹の面影を見ている。今朝、草に滴る露は詩人の涙を暗示。昔の火葬は遺骨になるまで一晩かかり、骨拾いは翌日に行っていた。火葬場の片隅に咲く可愛らしいすみれの花に亡き人を偲んでいる内容である。

《リタ》は全1幕のオペラ・コミックで、1860年にパリのオペラ・コミック座で初演された。台本はヴァエーズ。〈家も旅籠もうまくいく〉は、その最初のアリアである。舞台は18世紀の北イタリア。リタは旅籠の女将で勝気があり、女王様気質の性格をしている。前の夫には暴力を振るわれていたが、今度の夫は薄のろだから平手打ちを喰らわせられると楽しそうにし、機転の利かない男こそ理想の夫よと堂々と歌い上げる。

		
		
河内山 魁莉 (声楽)		共演者：林 菜月 (ピアノ)
Profile		
1997年神奈川県出身。洗足学園音楽大学声楽コース卒業。声楽を牧野正人氏に師事。中学2年次に校内合唱コンクールにて学園優勝、中学3年次ではソロを担当。中学、高校と吹奏楽でホルンを担当。中学3年夏のコンクールにて、東関東大会銀賞。高校3年夏のコンクールにて東関東大会銀賞。2013年3月、2016年3月、母校の中学校定期演奏会にて、ライオンキングのキャスト、ザズー、スカー王として出演。現在、洗足学園音楽大学専攻科声楽コース在籍中。		

Program

S.ドナウディ／歌曲集《古典様式による36のアリア》より

Stefano Donaudy(1879-1925) // 36 Arie di stile antico

新鮮な土地、芳しい野よ *Freschi luoghi, prati aulenti*

W.A.モーツァルト／歌劇《ドン ジョヴァンニ》K.527 より

Wolfgang Amadeus Mozart(1756-91) // Don Giovanni K.527

私の恋人を慰めに行ってください *Il mio tesoro intanto*

G.ロッシーニ／歌劇《セミラーミデ》より

Gioachino Rossini(1792-1868) // Semiramide

甘美な希望がこの魂を誘惑して *La speranza più soave*

Program Note

〈新鮮な土地、芳しい野よ〉は、S.ドナウディが作曲した《古典様式による36のアリア》という歌曲集の中の13番目の曲である。〈私の恋人を慰めに行ってください〉は、オペラ《ドン・ジョヴァンニ》の第2幕、オッターヴィオが歌うアリアである。このアリアはドン・ジョヴァンニがアンナの父の仇であるという確信が強まり、アンナの復讐は自分が行う、その間アンナの様子を見てほしいと、同行者に伝え、アンナへの強い想いをのせ、歌うアリアである。この曲を通じ、オッターヴィオの、アンナへの愛情が変わらず強いものだと感じられる。

《セミラーミデ》は、ロッシーニが1823年に作曲したオペラ・セリアで、彼のイタリア時代最後の作品となった。〈甘美な希望がこの魂を誘惑して〉は、このオペラの第2幕で、インドの王子イドレーノが歌うアリアである。舞台は古代バビロニア、場所はセミラーミデの部屋の前。イドレーノは、アゼーマ姫に相手が居たことを知り驚くが、それでも尚、自分に対して求愛することを求める。8分の6拍子のAndantinoでアゼーマ姫からの愛を得たと妄想し、既に自分の魂は喜んでいて歌い、Allegroになってから合唱が入り、イドレーノの想いが強くなっていく。歌詞も段々と、愛の強さゆえの強要の意が感じられる内容になっていく。

		
		
白石 渉 (声楽)		共演者：林 菜月 (ピアノ)
Profile		
静岡県沼津市出身。声種はテノール。6歳からピアノを習い始め、中学校吹奏楽部ににてホルンを始める。静岡県立沼津西高校芸術科音楽学科にてホルンを専攻し卒業。洗足学園音楽大学声楽コース入学。在学中に2019年度特別選抜演奏者に認定される。多摩美術大学とのコラボレーションオペラ、「魔笛」日本語公演にてタミーノ役を、「コジ・ファン・トゥッテ」にてフェランド役を務める。学内ゼミの日本語公演にて、「魔笛」タミーノ役、「カルメン」ドン・ホセ役を務める。これまでに声楽を牧野正人、江原陽子、各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学専攻科在学中。		

Program

G.ドニゼッティ／歌曲集《インフラスカータの秋の夕べ》より

Gaetano Donizetti(1797-1848) // Soirées d'automne à l'Infrascata

船乗りの恋（私は家を作りたい） *Amor marinaro(Me voglio fà 'na casa)*

G.ドニゼッティ／歌劇《愛の妙薬》より

Gaetano Donizetti // L'Elixir d'amore

人知れぬ涙 *Una furtiva lagrima*

Ch.グノー／歌劇《ロメオとジュリエット》より

Charles Gounod(1818-93) // Roméo et Juliette

恋よ、恋よ！ *L'amour ! L'amour !*

Program Note

〈船乗りの恋（私は家を作りたい）〉は、ドニゼッティが1836年に作曲した歌曲集《ボジリボの夏の夜》の続編として1837年に作った歌曲集《インフラスカータの秋の夕べ》に含まれる1曲。

歌劇《愛の妙薬》では、ネモリーノという若い男がその村の地主の娘であるアディーナに恋をしているが、勝気で教養もあり美人な彼女を高嶺の花だと思っている。彼女も好意を抱いているが、行き違うばかり。でたらめな妙薬を買うためにネモリーノは兵士に志願するが、彼の伯父が亡くなり遺産を相続するという噂が村に広がり、村の娘たちにもちやほやされる。アディーナは彼が自分のために兵役につくと決心したことを知り心打たれる。その様子を遠目に見たネモリーノは妙薬が効いたに違いないと喜び、〈人知れぬ涙〉を歌う。ドニゼッティは、歌劇の創作以前にすでに作っていたこのアリアを、この作品のこの部分にあてようと強く要求したようである。実際にこの作品にびったりはまる歌だったからであろう。

歌劇《ロメオとジュリエット》は、ウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を原作に作られた。彼の劇を題材にしたオペラは数多く残っているが、その多くは原作に忠実に台本が作成されている。モンタギュー家とキャピュレット家というヴェローナの2つの名家は、長年血で血を洗う仇敵同士であった。しかし、前者のロメオと後者のジュリエットは舞踏会場で出会って間もなく恋に落ちる。いったん別れたのち、ロメオはもう一度ジュリエットに会おうと彼女の邸宅の庭に忍び込む。そしてその際にジュリエットを呼ぶため、「君は僕の太陽だ」と呼び、このカヴァティーナ〈恋よ、恋よ！〉を歌う。

		
		
芳村 早紀子 (声楽)		共演者：林 菜月 (ピアノ)
Profile		
12歳よりフルートを、16歳より声楽を始める。八雲学園中学高等学校を卒業。洗足学園音楽大学音楽学部管楽器コースにフルートで入学。大学3年次に声楽科に転科し、同大学声楽コース卒業。フルートを安本恵子、苗代恵理子、酒井秀明、菅井春恵各氏に師事。声楽を保川将一、酒井泰子、齋藤由美子、塩田美奈子の各氏に師事。		

Program

A.カゼッラ／歌曲集《1300年代の3つの歌》作品36

Alfredo Casella(1883-1947) // 3 Canzoni Trecentesche op.36

- 第1曲 美しい人よ、私の心の光よ *Giovane bella, luce del mio core*
- 第2曲 美しい鳥かごから *Fuor de la bella gaiba*
- 第3曲 美しい人よ、お前が好きだ *Amanti sono, vaghiccia,di voi*

G.ドニゼッティ／歌劇《ランメルモールのルチア》より

Gaetano Donizetti(1797-1848) // Lucia di Lammermoor

あたりは静寂に包まれ *Regnava nel silenzio*

Program Note

A.カゼッラは、两大戦間のイタリア音楽界を代表する作曲家。パリ音楽院で学び、G.フォーレに作曲を師事し、フランス印象派の影響も強く受けている。

《1300年代の3つの歌》は1923年に作曲された。〈美しい人よ、私の心の光よ〉は、ビストイアの詩による。新古典主義の響きにのせて、ルネサンス期のイタリアで創始されたソネットの詩が技巧的に組み合わせられており、若々しい愛が歌われている。〈美しい鳥かごから〉は作詞者不明。鳥かごから飛び立つ夜鶯の音や、森へと重い足取りで進む男の子のおびえた足取りをピアノの伴奏で、子供の喚きを歌で表すなど、情景描写が豊かな曲である。〈美しい人よ、お前が好きだ〉も作詞者不明。リズムカルな伴奏に乗って初期ルネサンス期の活気あふれる情景を表している。

《ランモルモールのルチア》はG.ドニゼッティが1835年に作曲したオペラで、同年ナポリのサン・カルロ劇場で初演された。原作は、スコットランドの作家W.スコットの小説『ラマムアの花嫁』で、実際にスコットランドで起きた事件を元にしている。台本はS.カンマラーノによる。

〈あたりは静寂に包まれ〉は、第1幕でヒロインのルチアによって歌われる。ルチアとエドガルドは恋人同士だが、両家は敵対関係にある。ルチアは没落の危機に瀕した家を守るために、アルトゥーロと政略結婚をさせられそうになる。そんな中、恋人のエドガルドと密会するために、ルチアは侍女アリーサと共に城から抜け出す。ルチアはエルガルドを待ちながら、嫉妬に駆られた男が女を刺し殺して泉に沈めたという昔話と、自分もその運命になるのではないかという恐れを語り、彼への恋が私の全てだと歌う。

		
		
井山 優希 (フルート)		共演者：松井 洋子 (ピアノ)
Profile		
小学3年生から独学でフルートを始める、中学校入学と同時に吹奏楽部でフルートを担当、その後高校でも吹奏楽部に所属し、フルートを続ける。これまでにフルートを佐藤大祐、菅井春恵の各氏に師事。		

Program

B.マルティヌー／ファースト・ソナタ

Bohusav Martinu(1890-1959) // First Sonata

- 第1楽章 *Allegro moderato*
- 第2楽章 *Adagio*
- 第3楽章 *Allegro poco moderato*

